

東京

千代田 中央 新宿
港 文京 品川 北
目黒 大田 世田谷

渋谷 中野 杉並
豊島 板橋 練馬

速報や写真・話題の提
供、催しなどの連絡先
朝日新聞 東京総局
〒100-0011

千代田区内幸町2-2-1
日本プレスセンタービル3階
☎ 03-3508-0390
fax 03-5157-0615
mail tokyo@asahi.com

購読・配達のご用は
☎ 0120-33-0843
(7:00~21:00)

広告のご用は
☎ 03-3547-5552
折り込みのご用は
☎ 03-3544-7621

きょうの天気

6~12時 降水確率 12~18時

0	大手町	0
0	練馬	0
0	府中	0
0	八王子	0

大手町 府中

「熱いので気をつけてください」。
被災者に水ギョーザを手渡す中国残
留日本人孤児ら。岩手県陸前高田市



東京、神奈川、千葉、埼玉に暮らす中国残留日本人孤児たちが6日、東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市を訪れ、被災者たちに水ギョーザの炊き出しをした。「祖国・日本に少しでも恩返しをしたい」。手作りギョーザ約9千個を持参し、ごま油の香りが漂う熱々のスープを加えて配った。

炊き出しをしたのは、NPO法人「中国帰国者・日中友好の会」（事務局・台東区、池田澄江理事長）のメンバー14人。うち孤児は10人で66〜72歳。

孤児たちは津波の被害が伝えられた直後から、何かできないかと模索した。義援金を300万円以上集めたが、実際に温かい食べ物も届けたいと計画を練った。35人が3日ばかりでギョーザを手作り

首都圏の中国残留孤児、陸前高田へ

し、運輸会社の協力も得て、体力に自信のあるメンバーが現地での「実働部隊」になった。

5日夜に出発、約12時間かけて到着するとさっそくギョーザをゆで、復興の最前線で休みなく働く陸前高田市災害対策本部の昼食用に200食を届けた。

その後、壊滅状態の市街地に入り、白と黄色の菊の花40本を手向けた。電気も水道もまだ復旧していない地区にもギョーザを届け、夕方からは湯気を立てた水ギョーザを避難所前で振る舞った。

被災した自宅で知人らと避難生活続ける会社員福田美紀さん(37)は、ご近所の分も含め約100食を受け取った。「今はギョーザなんて食べられない。みんな楽しみにしている」。避難所で食べた男性は「おいしい」とお代わりをしてはおぼせていた。

(編集委員・大久保真紀)

心も温まる 熱々水ギョーザ